

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月10日

【評価実施概要】

事業所番号	0170202618		
法人名	株式会社 じょうてつケアサービス		
事業所名	グループホーム菜の花しのろ館		
所在地	札幌市北区篠路3条8丁目9-66 (電話) 011-771-1092		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年11月30日	評価確定日	平成20年1月10日

【情報提供票より】(平成 19年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 11月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	15人	常勤15人, 非常勤0人, 常勤換算6.5人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	16,000 円	
敷金	有(55,000円)		暖房費5ヶ月×6,000円	
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,250 円	

(4) 利用者の概要(11月30日現在)

利用者人数	16名	男性	8名	女性	8名	
要介護1	2名	要介護2	6名			
要介護3	7名	要介護4	1名			
要介護5	0	要支援2	0			
年齢	平均	84歳	最低	58歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	しのろ駅前医院・宮の沢クリニック・マリオン歯科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員と利用者と家族的に良好な関係で、特に職員間は自由に様々な話題の話し合いがされ、居心地の良い事業所である。ユニット毎に「苦情、相談対応記録簿」が用意され、利用者本人と家族の話を受け止めて記録し、対応や解決策など細やかに記載して職員が共有してケアの向上を目指している。運営推進会議を通して地域との係わりが良好で、地域の方の提案で町内の方々を交えた緊急連絡網が完成されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>室内のテレビなど音については、個別に工夫している。緊急時の手当の取り組みは運営推進会議の後、講習会を実施した。研修会には職員は機会を作って参加している。家族への情報提供は隔月発行の「たより」で様子を知らせている。行政との連携も良好である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回から地域密着型の取り組みが重視されていることを確認しながら、各項目を職員は時間をかけて話し合い検討を重ねている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を定期的に開催し、事業所としての取り組みや課題について活発に意見交換をし、特に緊急連絡網に地域の協力が得られ、具体的な連携が図られるなど、望ましい連絡網が作られている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ユニット独自に苦情ノートを用意し、職員は気づいた時、家族と話した時、利用者のつぶやきなど意見や要望も含めて即記載して、職員間で話し合い、運営に活かしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p>
	<p>住宅地に開設された事業所は、町内会の行事や女性部の催物など積極的に参加して良好な連携がとれている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念、菜の花ホーム理念、さらに菜の花ケア理念はいずれにも地域密着型サービスとしての内容が盛り込まれており、事業所内の見やすい場所に掲示されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員はネームプレートの裏面に理念を記載して日々実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の催し(お祭りなど)や女性部の行事に積極的に参加している。地域の中で孤立することなく連携は良好である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価の改善点は全職員で項目ごとに見直し、取り組みを実施し、今回の自己評価は地域密着型の取り組みが重視されていることを確認しながら各項目、職員で時間を掛けて話し合い検討している。		

札幌市北区 グループホーム 菜の花しのろ館

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月ごとに開催し、事業所の報告並びに課題や行事の案内などを話し、地域の方や家族から、意見など活発に話し合いがされている。地域を含めた緊急連絡網が作成されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、連絡会議など開催時は参加している。疑問点はその都度市の担当者と連絡をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の様子は、写真を多く使った「たより」をユニットで隔月に発行している。内容のほとんどは行事の報告が主である。	○	「たより」の内容について検討し、事業所からのお知らせや要望、さらに職員の異動などを記載されることが望ましい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニットで「苦情ノート」を用意している。記載は利用者のつぶやき、意見、要望など、利用者家族と面接時の聞き取りなど、多岐にわたって職員は誰でも自由に記載できる仕組みになっている。それらを運営に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者のレベルに合わせて対応を考え、できるだけ早く馴染みになるように配慮している。例えば、入浴介助などを通して信頼を得るようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営母体には数カ所のグループホームがあり、新任研修や一般研修を計画的に企画し、全体で共通課題について学んでいる。さらに、事業所のみで年間計画にもとづいて研修を実施している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列の事業所とは交流や合同研修会があるが、地域内のほかの事業所とは交流する機会はない。	○	近隣にも、また同一区内にもグループホームは数多くあるので、交流の機会を検討することが望ましい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人内に営業担当者がいて、本人と家族は見学終了後、面談、さらに判定会議を経て契約に至る手順になっている。体験もできるので利用者も職員も安心してサービスが開始されるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と職員との間柄は、家族のように親子、孫、兄弟など親しい関係で自然な会話が流れている。利用者に教えられることも数多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、暮らし方の意向や希望などを把握して利用者本位に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ユニットに「気づきシート」を用意して日々記入され、チームで把握された事項をもとに会議で検討し、家族の意見を踏まえて介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヵ月ごとに見直しをしている。状況の変化があるときは本人、家族、関係者と話し合い、現状にあった介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院の受診や利用者の希望による外出など、事業所の車両使用など柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	管理者は、看護職員を兼務し、利用者の健康管理に殊更注意をし、掛り付け医師と連携を密にして、往診による受診、又外来受診、個別に対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に同意を得ているが、その都度、状態に合わせて、本人や家族の希望など十分検討して対応する仕組みになっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録や情報は厳重に取り扱い、職員間の取り決めもある。言葉掛けなど、利用者の尊厳を守りプライバシーの保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は業務にしばられずに、利用者の状況に即対応できるようにゆとりをもって支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が共同作業で食事に係わり、楽しい雰囲気ですべてを整えている。食前に口の体操などユニットで実施し、なごやかに食事をしている。また、後始末も利用者が協力している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日や時間は概ね決めているが、利用者優先に希望を取り入れ、くつろいで入浴できるように配慮している。浴室は広くて介助しやすい造りになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で細かく作業を分類し、利用者ができる部分を個別に無理なく役割として参加して頂き、充実感をもつように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所では、年間計画を作成し屋外行事を盛り込んだプログラムを実施している。事業所では自由に利用できる車を確保して個別に外出支援を実施している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニットの入口には、開閉が把握できる呼鈴が設置され、日中は施錠していない。夜間のみ施錠している。		

札幌市北区 グループホーム 菜の花しのろ館

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導を頂いて、地域の住民を含めて避難訓練を実施している。さらに、緊急連絡網の中に、地域の協力が得られて、近隣の連絡先が記載されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人で、献立作成から食材購入など一括手配をしているのでバランスの良い食事内容になっている。水分や摂取量は一人ひとり把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	運営者はほかの地域にグループホームを運営し、建物は良く吟味して住みやすい間取りになっている。共用の居間、台所、浴室など利用者の視点で居心地良い造りになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には各自使い慣れたタンスやテレビ、ベッドなどを持ち込み、利用者は自分の部屋として落ち着いて過ごしている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。